子供の病氣

——一般の豫防及治療法——

醫學士　石塚保吉

消化器病の豫防

一般に豫防法と云ひましても、勿論病氣によつて其の方法も自ら異つて來るのでありまして、消化器病の豫防と呼吸器病の豫防とは、どうしても違つた心掛けが要るのであります。消化器病の豫防に就いては、これまで數回に渉つて御話をした子供の營養法其の他の注意を嚴重に守つて、保育して行けば、それで一般の豫防が遂げられて居る譯であります。もう一度簡單に繰返して見ますると、例へば哺乳兒であれば哺乳兒の章で御話した方法に從つて、最も適當な營養分を撰んで適當なる時間に、適當なる分量を與へること、其の他器物の消毒を嚴重にすること、子供の口内を常に清潔にして置くといふやうな種々の注意を正當に行つて居られゝばよいのであります。

季節の上に於ける注意としては、一般に消化機病は冬には餘り大したことがなくて、春から夏にかけて多く起るものでありまするから、此の期に當つては殊更に注意を深くし、牛乳の消毒、器物の洗方等は勿論、營養品の精撰に心して、常に新鮮なるものを與へることが大切であります。

少し大きくなつた子供になると、赤痢や小兒コレラ等の酷い病氣に罹り易いものでありまするから常に食べ過ごさないやうに注意せなければなり

ません。殊に赤痢などは壯健にまかせて食べ過ぎた時に起るのが普通なのであります。

もう一つ特に注意すべきことは、小さな子供を早く生長させようと考へるのが、親としての一般の慾目であります。その爲めに考へもなく、無暗に物を食べさせたり、卅分置きにお乳を與へたりする爲めに、却つて子供の身體を害ふといふやうな場合が多いのであります。この間も斯ういふ實例があつたので、生れて半年も經たぬ子供に一日一升五合の牛乳を與へた爲めに、子供の胃を毀したといふ寧ろ無智に近いやり方をされて居たのであります。これは非常に注意をせなければなりません。

いま一つ心得て置くべきことは、大抵の母は子供が泣くと、それが何ういふ原因であつても、單にお乳をほしがる爲であると解釋してしまつて、直ぐにお乳を與へる。成る程お乳を與へれば他の原因の爲めに泣いて居る時でも、一時は其の爲めに止ります。然し其爲めに却つて他の病氣を重くするのであります。例へば胃腸が痛む爲めに泣くといふ場合に、お乳を與へそれで安心をして居ると、だん〳〵病勢を強くするばかりであります、勿論、營養品を與へることは必要でありますが、過ぐるよりは足りぬ方が寧ろ增しであります。それ故食物は常に少いと思ふ位の程度に與へて置くべきであります。

呼吸機病の豫防

次には呼吸機病の豫防でありますが。これも前に詳しく御話して置きましたから其れに則つて、十分の注意を施して行けばよいのであります。たゞ、此の病は夏には餘りなくて、秋から冬にかけて寒い時分に起るものでありまして、子供を寒さにあたらせないと云ふことが、其の最も主なる豫防法なのであります。と云つて、無暗に溫くさせ

て置きさへすればよろしいやうに考へて、夏の中に綿入を着せるやうなことがあつてはなりませんさう云ふ厚着は寧ろ風を引く因となるに過ぎないのであります。

一體に呼吸機の病氣といふものは、外の空氣の溫度に激變がある爲めに起るもので、夕方に室の戸を開け放して、子供を寢させて置くといふやうことが其の主なる原因であります。成人であるとも夕方になつて少しく寒い風に觸れても風を引くといふことはありませんが、身體の薄弱なる子供は直ぐに其の害を蒙るのであります。又た着物さへ澤山に着せて置けば寒い處へ出しても差支ないと多くの人は考へて居らるゝやうですが、それは大なる誤りであります。幾ら澤山の着物を着せて置いても、外の空氣が冷ければ何の豫防にもならぬばかりではなく身體の外側が蟄くつて、體内に入る空氣が冷い爲めに、却つて風をひく度合が多くなるのであります。

けれども、寒い風にあてゝはならぬと云つて、餘り幾日も室の戸をたて込めて置くと、室の中の空氣が穢れて來る爲めに、呼吸機を毀すやうになるのでありますから、毎日適當なる時間に室の窓を開け放して空氣の流通をつけることを忘れてはなりません。また子供を遊ばするには南向の、光のよく入る室で遊ばせ風がなければ室を開けて置くやうにせなければなりません。

傳染病の豫防

次に最も多いのは傳染病であります、勿論、これは其の病毒が體内に入つて來なければ起らないのでありまするから、傳染病の流行する時期には家に居て外と交通をせなければ傳染することがありません。殊に百日咳、痲疹等は學校、幼稚園其他の群集の中へ行つた時に感染するのが多いのですから、さういふ病の流行つて居る時は、其の病

に罹つて居る人に注意するは勿論、成るべく外へ出さないやうな注意が必要であります、傳染病の中で、チブス赤痢等は口から入るのでありますから、食物の方を嚴重にし、また疑はしい病者に接した時は嚴格に消毒をすることを怠つてはなりません。

子供が最も多く罹る病氣は、大低、上に掲げた數種の病でありまして、神經系統に屬する病氣は極めて稀であります。從つて其の豫防法の如きも素人としては適當な手段がないと云つていゝのであります。

療法一般

次に子供の病氣を治療する上に、成人の病氣に對する時と、其の取扱の異なる點を申上げて見ようと思ひます。

子供の病氣に就ては、一般の規則として、出來るだけ食餌其他の攝生法を採り、藥劑の治療を成るべく少くするといふことであります。たゞ止むを得ざる場合だけ單に補助として藥劑を用ふるに止め、また用ふるにしても、極く單純で無害のものを選び、分量に就ても細心の注意が大切であります。劇藥の如きは可成に排斥せなければなりません。それ故、發熱したからと云つて、直ぐ熱ざましを與へたりするのはよろしくありません。寧ろ冷罨法を施す方が適當であります。そして成るべく發熱の原因を調べて、其原因に對する手當を致しますれば熱は自然に引くものであります。例へば腸に不消化物が溜つた爲めに發熱をする場合であれば、下劑を與へて、それを排出せしむれば自然と熱が引く類でありまして、其他或はお湯に入れ、或る罨法を施すなどして、新陳代謝の働きを強め、或は食事に注意し、新鮮な空氣を呼吸せしめ、入浴其の他の方法で皮膚を清潔にするといふやうな種々の手當に依りて治療を計るのでありま

す。

斯ういふ風で、子供が病氣に罹つた時に第一に醫者のする心配は、先づ原因に對する手當をするのは勿論でありますが、其他子供の食事に關して適當なる注意を與ふること、子供に新鮮な空氣を呼吸せしめること、子供の身の廻りを清潔にすること等でありまして、殊に慢性の病氣にあつては都會に居る子供なれば直ぐに山間や海岸の靜地に移らしめて、永く新鮮な空氣を與へるやうにするのであります。病氣によつては場所を換へたと云ふことだけで治る場合も多いのでありまして、日本などでは、まださういふ進んだ施設も出來て居りませんが、西洋では靜閑の地に、病氣の子供を預つて、恢復に至るまで養つてやると云ふ養生院が、一の公共團體として立派に立つて居るのであります。そして其處では極く僅の費用で永く適當な養生を施すといふばかりではなしに、永く止まつて居る子供に對しては、相當の教育を施しでやるだけの十分な設備が出來て居るのであります。近來は日本に於ても、だん〳〵此の種の機關の必要を認められて來た爲めに、京都の醫學大學では、慢性病兒の爲めに娯樂室や、教育を授ける樣設備されて居るさうであります。斯ういふ機關がもつと澤山に建設されて、其の設備も具つて來ましたならば、我が子供の爲め非常に幸福な事柄であらうと思ひます。以下特種療法に就き少しく御話し致しませう。

食餌療法

腹胃の病氣に對する最初の手當は、前申したやうに、先づ食餌療法から始めなければなりません母のお乳を呑んで居る子供でありますと、子供が病氣に罹つても大低はお乳を止める必要はないものですが、それでも時によつて一時は是非止めて他の食物を與へる必要のある場合があります。一

般の母は、このお乳を止めるといふことを非常に嫌ふ傾があるのでして、自分の經驗によりますと未だ嘗つて、反對なしに此の要求を容れられた事がないのであります。殊に母乳を止して人工營養に更へる場合の如きは、それに反對する母が一番多いのであります。これは素人としては無理からぬことで、普通に營養分の多い母乳を止して、それの少い人工營養を與へるのですから、ちよつと考へると非常に愚なことのやうにも思はれるのであります。けれども、幾ら良い食物でも病氣に依りましては有害に働くことも往々にしてあるもので、殊に重き腸胃の疾患にて病勢を弱らしめる爲めに、一時他の食物に更へる必要のある場合の如きは、是非とも醫者の命に從ふことが大切であります。それを詰ちぬことに理屈をつけて、其の命に反對して居ますと、病氣が重くなるばかりで、子供を害ふ場合が生ずるのであります。これは天然の營養を止める場合ですが、人工營養を用ゐて居らるゝ子供にあつては、度々これを行ふ必要があるのでして、お乳の分量を攝するのを、醫者の方では、「休息療法」と云ひ、全部の營養を止めるのを「饑餓療法」と申して居ります、そして場合に依つては、これが唯一の療法で、これをやらぬと命にかゝわる場合さへも二三種はあるのです。而も此の饑餓療法をとる場合には、殆ど總ての人はこれに從はないので其の爲めに子供の命を失ふといふ例が非常に多いのでありますから、場合によつては、さういふ療法も手段として施さねばならぬといふことを知つて置くべきであります。

素人療法の危險

子供の營養品を取り換へたり、分量や時間を定たりすることは、其の病氣の種類や、病勢の程度によつて、それ〳〵違ふものでありますから、こゝに一々御話することは出來ません。其の場合に

應じて小兒科醫の指導に俟つやうにする外はありません。又、子供には成るべく藥品療法をさけると云ひましても、絶對に藥を用ゐないと云ふ譯にはゆきません。それも其の機に應じた處置をとるべきでありまして、こゝに一定した法則を申し上げるのは困難でありまするし、また素人としてはさういふ手當を知らない方が却つて安全であります。醫學上の知識のない素人療法程世に危險なものはないので、殊に子供に對する素人療法は最も恐るべき事柄であります。田舍の醫者であつて、小兒科の事に明くない人が、よい加減に藥を盛つた爲めに、子供の身體を害ふと云ふやうな例は極めて多いのであります。成人であれば少し位の間違はあつても、左程大した變動も起りませんが、外部の刺戟に鋭敏な子供の機關は、ちよつとした間違の爲めに不測の害を蒙るのであります。それ故、小さな子供に賣藥を呑ますなどは殊の外よくないので、その爲めに病を重らして、初めて醫者の處へ來ると云ふのが多いのであります。

水治療法

普通の人が、何の害にもならぬと思つてやる手當で、非常に危險な事が多いのに反して、非常な危險事として排けて居る手當に、却つて有益な、而も何等の害を酵さない手當が澤山にあるので、卽ち茲に云ふ『水治療法』の如きは其の一であります。

水治療法と云ふのは、熱のある子供に、藥を與へることをさけて、水の中に子供を入れてやるのであります。これは日本では餘り行はれて居ない療法であります爲めに、熱のあるのに水の中へ入れるのはよくない事のやうに思はれて居ますが、決してさうではないので、子供が呼吸困難に陷つた場合の如きも、お湯の中へ入れて、水をかけて深呼吸をさせると、それだけで大低は恢復するの

であります。

其の他、皮膚病の子供や、皮膚の赤くたゝれるやうな子供はお湯に入れて、清潔にした上で、藥を塗つてやることは勿論でありますが、もう一つ早産兒であつて自ら體溫をとることの出來ぬ子供には、お湯に入れて溫めてやることが最もよい手當であります。着物や湯たんぽでは溫度のとれない子供であつても、湯に入れてやれば溫まるのであります。

發汗療法

次に「發汗療法」と云ふのがあります。これは肺炎、消化機病等の重い病に罹つて、酷く弱つて居る子供を、少し暑いお湯に入れて充血させた上汗の出る位に溫めてやるのであります。これは非常によく効くことがあるので、殊に赤痢などの中毒性の病氣や、腸毒が體内に廻つて腦を侵して居るやうな危險のある場合に、この發汗療法をやると汗と共に其の病毒が排出されて、恢復を見ることが多いのであります。これを一層強くして用ゐようとするには、湯の中に芥子を入れて浴びさせることであります。

其の他は發熱した場合に行ふ濕布療法や、呼吸機を害した時に行ふ吸入療法なども、是非行ふべき最好の手當でありまして、人によつては、吸入などは素人がやるのはいけないと云ふ論もありますけれども、應急の手當としては別に害のあるものではありませんから、やる方がよろしいのです勿論、そればかりに便つて安心されて居ては困るけれども、補助的な手當としてはよろしいのであります。其の方法等に就いては、一般に知られて居ることですから、更めて說明の要を見ないことゝ思ひます。

胃腸の洗滌法

もう一つ小兒科で用ふる有効な療法は、胃の洗

滌法であります。これは消化不良の時に行ふので成人に對しては常に行はれて居る事ですが、子供に對してはより以上の効力のあるものでありますこれ等も多少療法が變つて居る爲めに、素人からは恐れられて居るやうですが、何も危險な事はないので、やつた後は却つて心持がよくなり、治療の期間を縮めることが出來るのであります。それから腸の洗滌の如きも非常に効のある療法で、殊に疫痢や赤痢等には最もよく、殆ど唯一の療法と云つてよろしいのであります。何故斯ういふ洗滌をやるかと云ふと、腸に病毒が溜つて居ると、其の中に黴菌が生じそれが腦を刺戟して、腦膜炎を起し危險に陥るといふことがありまするから、成るべく早く是れを排出させる爲めであります。

食鹽注射

小兒コレラ等で盛に吐き下しをした爲めに、體內の水分を排出してしまい、外から之を補つても保ないと云ふ場合には『食鹽水の皮下注射』をやります。これは成人にもやる療法ですが、子供には最もよく効く方法で、殊に中毒性の病毒が體內に廻つて居る場合には、この療法をとる外はないと云つてよろしいのであります。素人は此の療法を非常に嫌つて、仲々行はせないものでありますが、消毒を嚴重にさへすれば、決して恐るべきものではないので、有益無害な方法ですから、これも知つて居て醫者の勸めに從ふやうにせなければなりません。

腰推穿刺

腦膜炎に侵されて居る場合には『腰推穿刺』と云ふのをやります。これは脊髓に針をさして、腦の中に溜つて居る腦脊髓液をとるのであります。これに依つて腦膜炎の治る場合もあるし、また其の液體をとつて見ると、其の病容を知ることも出來るのであります。つまり一は治療そのものゝ爲

めに、一は診斷の助けとして此の方法を用ふる場合があるのであります。それ故、總て斯ういふ變つた療法に對しては、其の醫者を信じて、恐れずに適當の處置を受くるといふ心掛けを平常から持つて居らるゝように仕度いのであります。さうでないと、折角、醫者が適當の手當を施さうとしても、親達が聞き容れない爲めに、見す〳〵子供を死地に陷らしむるといふやうな結果を往々にして見るのであります、素人としては、六ケしい病氣の手當を知つて居たり、不完全な手當法を知つて居て、それを勝手に行ふよりは、先づ斯ういふ手當が醫者によつて行はれる場合の有益無害なることを知つて居られて、それに從ふと云ふことが、もつと大切な事ではあるまいかと思ふのであります。

○醫學博士加藤照麿氏述『育兒法』

家庭にも幼稚園にも、幼兒の衛生に關する智識ほど必要のものはありますまい。子供の眞の幸福のためには、先づ何よりその身體の正當たる取扱から始められなければなりません。『育兒法』は此の必要な智識を與ふるものであります。殊に本書の特色たる平易と實際的とは幼兒の衛生及諸小兒病に就て總ての讀者に最も適切便利なる具體的知識を與へるように苦心せられてあります。東京市小石川區雜司谷町婦人之友社發行定價金八拾錢)

○第廿八回心理學通俗講話會

一、十月十二日午後二時より

一、法科大學卅二番教室にて

婦人問題　文學士　鵜飼祐弐君

兒童觀察より觀たる家庭教育　東京高等師範學校教授　佐々木吉三郎君